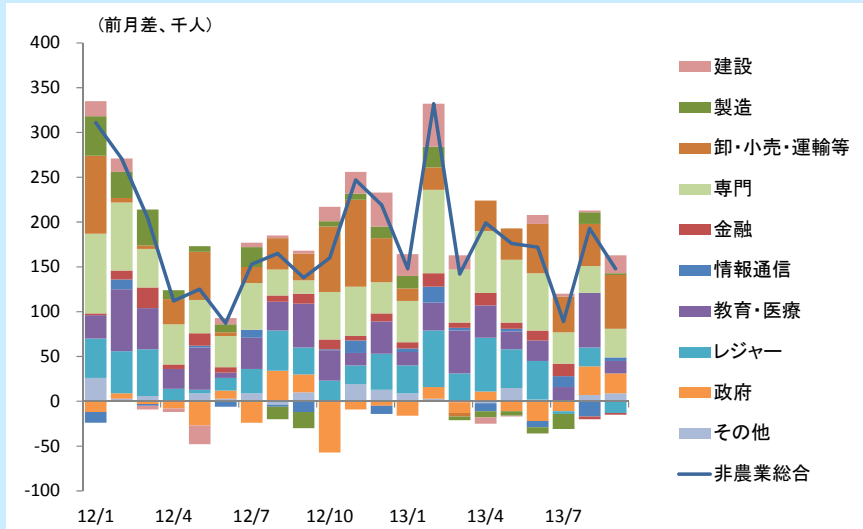


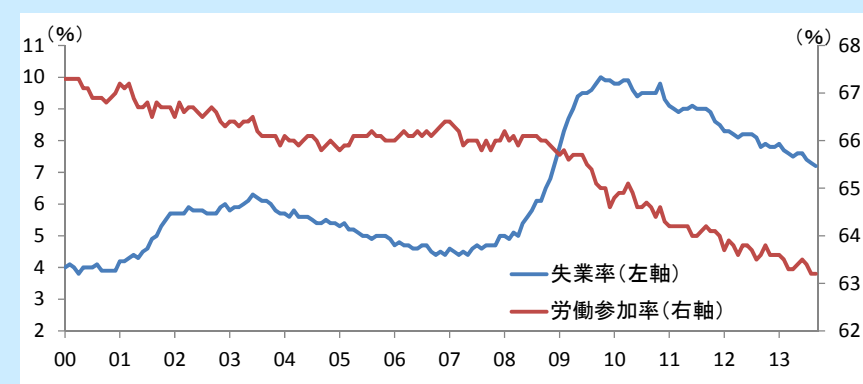
米国：雇用統計（2013年9月）

MRI Daily Economic Points
October 23, 2013

図表1 非農業部門雇用者数（前月差）



図表2 米国失業率



資料：米国労働省

Copyright (c) Mitsubishi Research Institute, Inc.

評価ポイント

今回の結果(注)

- 9月の非農業部門雇用者数は、前月差+14.8万人増となった。7月は下方修正(+10.4万人→+8.9万人)、8月は上方修正(+16.9万人→+19.3万人)
- 9月の内訳をみると、サービス業(同+10.0万人)では、ビジネス・専門(同+3.2万人)、運輸(同+2.3万人)、小売(同+2.1万人)が増加した一方、レジャー(同▲1.3万人)が減少。非サービス業(同+2.6万人)は、建設業(同+2.0万人)の増加から2ヶ月連続の増加。政府部門(同+2.2万人)は減少基調から増加に転じた。
- 9月の平均労働時間(33.7時間/週)は前月から変わらず。平均賃金も前年比+2.2%と前月と同様の伸び。
- 9月の失業率は、7.2%(前月7.3%)と低下し、08年12月以来の水準へ改善。労働参加率は63.2%で前月と変わらず、1979年5月以来の低水準で推移。

基調判断と今後の流れ

- 今回は市場の予想(+18万人)を下回る結果。米国の非農業部門雇用者数の増加ペースは、13年初来平均で17.8万人に対し、足元3ヶ月平均は14.3万人増と、趨勢がやや鈍化している。
- 財政政策の不透明感から企業の新規採用に対する姿勢が慎重化した可能性がある。もっとも、先行指標をみると、9月のISM雇用指数は、製造業・非製造業ともに増減の分岐点である50を上回っており、企業の雇用に対する前向きな姿勢は維持されている。
- 今後も、堅調な内需を背景に、雇用市場の緩やかな改善は続くと思われる。ただし、財政運営を巡る不透明感が続けば、企業の雇用に対する姿勢が悪化し、雇用者数の増加ペースが一段と鈍化する可能性は残る。年内のFRBの量的緩和縮小の可能性は低下したと言えよう。

(注) 政府閉鎖のため、9月の米国雇用統計は10月22日に公表。

担当：政策・経済研究センター 田中康就 武田洋子 TEL 03-6705-6087